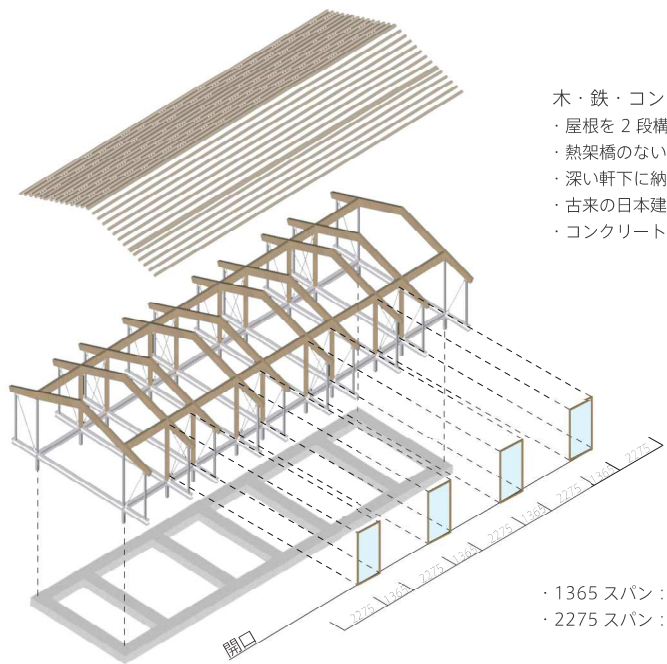


## ヒュッテナナナ

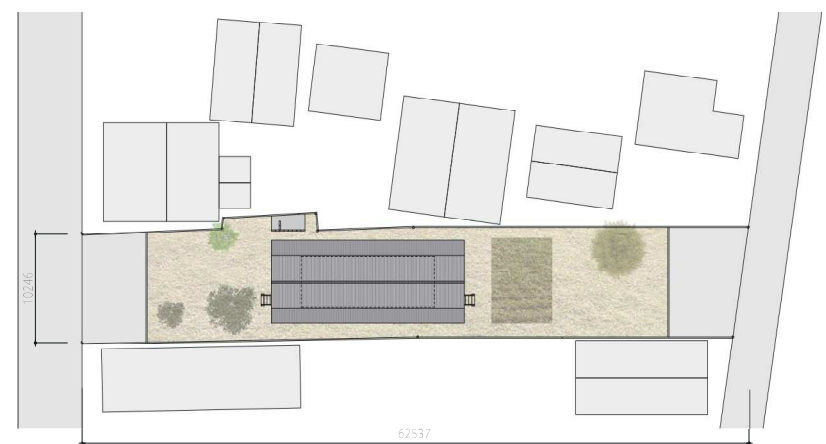
この建築は、Web制作会社の社屋。敷地は施主が思い入れをもつ土地。ここでは、社業であるインターネットの世界がコーディングによって生成されるように、建築において『コード』となりうるもの。意匠と構造が同時に成立し、ディテールさえも自動生成されるようなものを見つけたそうでした。考えたのは、両端の片ブレースにより耐震壁と片持構造をつくりだし、特殊な接合金物（ホームコネクター）で剛接化した棟部によって成立したフレームを、「要素を持たない」2275mmのFIXガラスと、「要素を集めた」1365mmの両ブレース+開き戸を繰返す構成。そして、再生可能な素材（木・鉄・ガラス）でそれぞれの特性を活かした要素とすること。産業廃棄物となる材料（コンクリート）を極端に減らし、空間をつくる付加的材料（石膏ボード）を使わないことが、インターネットの世界におけるプログラムバグを発生させないことと通じているのかも知れません。結果、このコードによって、この地に出現した建築は、多大な魅力をみせ、施主の人生に豊かな彩りを与えはじめています。



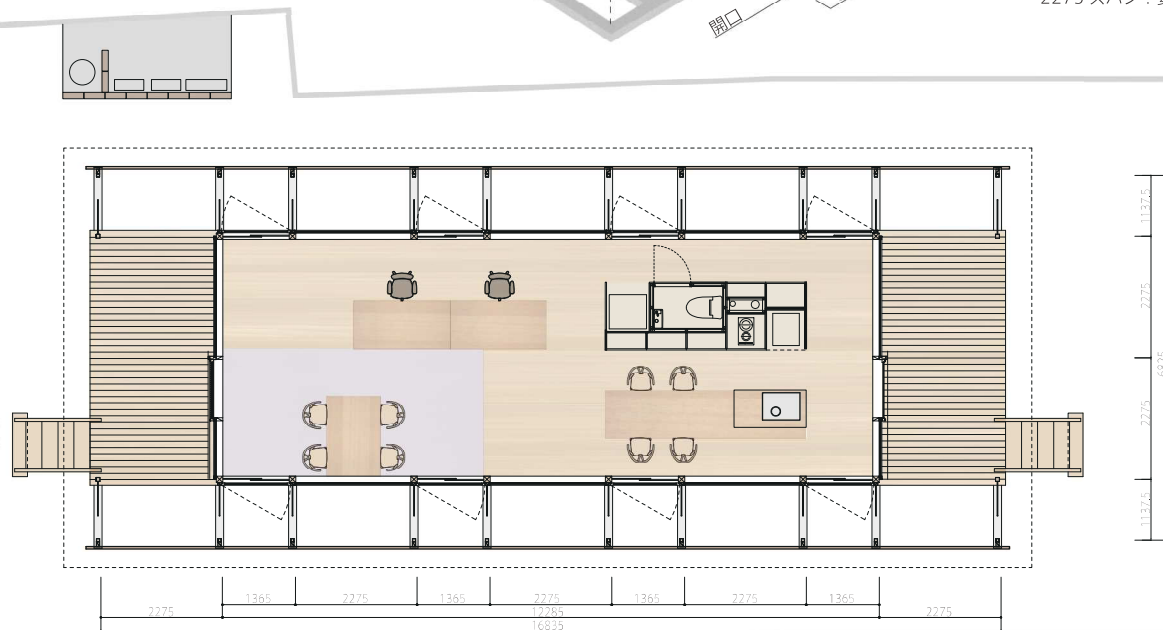
- 木・鉄・コンクリートの特性を活かした構造
- ・屋根を2段構成にし、90x90の母屋が室内外で連続するシンプルな納まり。
  - ・熱架橋のない木造による軸組みとガラスにより成立する内部空間。
  - ・深い軒下に納まる鉄骨と木による片持ち耐震壁。
  - ・古来の日本建築様式にも通じる鉄骨立体土台による開放的な床下空間。
  - ・コンクリートによる550幅、375高の直方体の布基礎は上面のみの表出。

木の耐久性と更新について  
今回使用している木材は全て国産材。また、外部木材の保護を考えて深い軒下空間としています。ルーバーやデッキ材は更新する必要があると考えていますが、塗料の耐久性やコストを考え、流通材で構成し、栗によるフローリングとシナによるテーブル以外を無塗装としています。

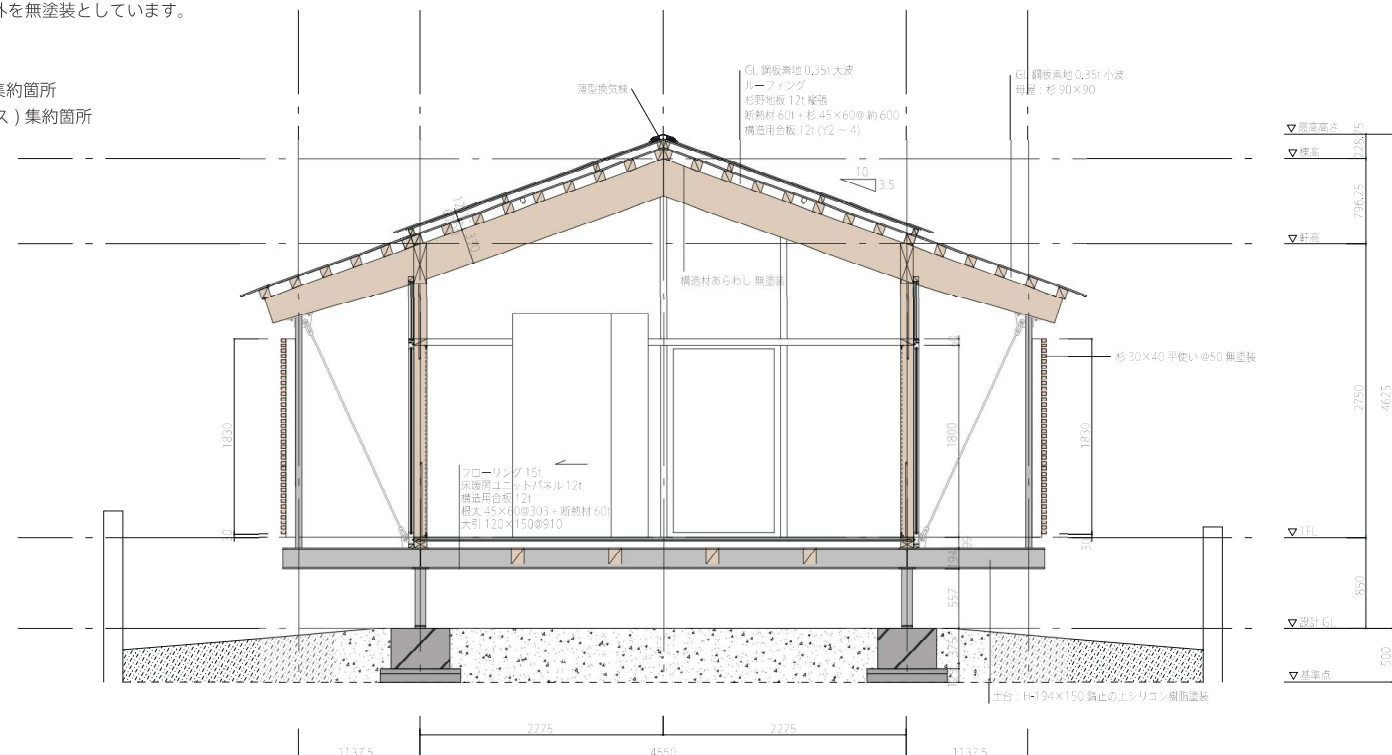
- ・1365スパン：機能（開口・ブレース）の集約箇所
- ・2275スパン：要素のなくした（FIXガラス）集約箇所



配置図 1/500



平面図 1/100



断面図 1/50